対話型研修パッケージ「カベトーク!」 Ver.1.0 進行資料

令和８年10月
岡山県生涯学習センター

1 カベトーク!のねらい

（1） 学校・家庭・地域・行政など、立場によって異なる「心配」「責任感」「願い」に気付き、相手の言葉の背景を想像する。

（2） “できない”で対話を止めるのではなく、「どうすれば一緒にできる?」という問いから、よりよい方法を探る。

（3） 新しい活動を考えるだけでなく、今ある活動や関わり方を見直す。

【最初に共有する3つの考え方】

※“カベ” は、人そのものではなく、立場の違いから生まれる心配や事情、大切にしていることをカードで見える形にし、対話の材料にしたものです。

※この研修でいう「翻訳」とは、相手を変えることではなく、相手の声を受けて、言葉・役割分担・方法・進め方を“一緒にできる形”へ組み替えることです。

※相手の背景について考える内容はあくまで「仮説」。決めつけず、実際は対話の中で確かめます。

2 実施の目安・準備

所要時間	約 45 分
人数	1 グループ3～5人程度（1 グループから実施可）
準備物	障壁カード…1グループ1セット／ワークシート…1グループ 1 枚／筆記用具／ 必要に応じて投影スライド
題材	今ある活動・取組、これから始めたい活動、地域学校協働活動の振り返り、学校運営協議会で扱うテーマ 等
進行役	1 名（専門的なファシリテーション経験は不要。進行台本に沿って進める）
ゴール	「子どもたちのために、どうすれば一緒にできるか」を考え、活動や関わり方の見直しにつなげる

3 標準 45 分モデル

時間	活動	ねらい
0～ 3分	導入（3分）	ねらいとルールを共有する
3～ 8分	題材を決める（5 分）	みんなで考える具体的な活動・取組を1つ決める ※主催者が予め題材を設定しても OK
8～13分	選ぶ（5 分）	立ちはだかりそうな「カベ」を1枚選ぶ
13～23分	訳す（10 分）	言葉の奥にある背景を想像し、一緒にできる方法を考える
23～37分	話す（14分）	カードの人物になりきって 2 回の壁打ちを行い、翻訳術を磨く
37～42分	振り返る・見直す（5分）	活動・関わり方そのものを見直す
42～45分	まとめ（3分）	気付きと次の一歩を共有する

4 進行台本（そのまま読んで使える標準例）

初めて実施する方へ

黄色の進行例を上から順に読めば進行できます。

「ねらい」と「ポイント」は、事前準備や進行に迷ったときに確認してください。

活動	ねらい・進行例・進行のポイント
導入（3分） スライド1～3	ねらい　参加者が「誰かを説得する研修」ではなく、立場の違いを理解し、一緒にできる方法を探す対話であることを理解する。 進行例【スライド1】 それでは、対話型研修「カベトーク!」を始めます。学校や地域で何かを進めようとすると、「忙しくて難しい」「事故が心配」「前例がない」など、少し厳しく聞こえる声に出会うことがあります。 今日は、そうした声を“反対意見”として片付けるのではなく、その言葉の奥にある思いや立場を考えながら、“できない”を“どうすれば一緒にできる?”へと翻訳していきます。 キーワードは、「選ぶ」「訳す」「話す」、そして最後に「見直す」です。 45 分間、よろしくお願いします。 【スライド2】 最初に、今日のゴールを確認します。この研修は、「誰が正しいのか」を決めたり、相手を説得したり、言い負かしたりするための研修ではありません。 まず、相手の言葉の背景にある「心配」「責任感」「願い」を想像します。そして、言葉だけでなく、役割分担や方法、進め方も含めて、「どうすれば一緒にできる?」という形へ考え直します。 さらに大切なのは、相手への伝え方だけではなく、必要なら自分たちの活動そのものも見直すことです。今日は、子どもをまんなかに置きながら、よりよい形を一緒に探していきましょう。 【スライド3】 今日の流れです。まず、みんなで考える活動や取組を一つ決めます。 次に、その活動にありそうな 10 種類の「カベ」から1枚選び、その声の奥にある「心配」「責任感」「願い」を考えます。これが「訳す」です。 そして、実際に役になりきってやり取りし、考えた翻訳術を試します。これが「話す」です。 最後に、そこで得た気付きをもとに、活動や関わり方そのものを「見直す」ところまで行います。 ここでいう「カベ」は人ではありません。立場の違いから生まれる心配やすれ違いを見える形にし、対話の材料にしたものです。では、早速始めましょう。 ポイント・冒頭で「説得・論破の練習ではない」と明確にする。ここが曖昧だと、壁打ちが対立の再現になりやすい。

	・カードの人物を実在の特定個人と結び付けて批判しないよう伝える。
題材を決める （5 分） スライド4	ねらい　障壁カードを“架空の話”で終わらせず、自分たちの地域・学校の具体的な活動や関わり方に結び付ける。 進行例　まず、今日このメンバーで考える「活動・取組」を 1 つ決めます。新しく始めたい活動でも、今すでに行っている活動でも構いません。 例えば、行事、見守り、体験活動、地域交流などの「今ある活動を見直す」こと。 探究、キャリア、防災、地域課題などの「新しい取組を考える」こと。 役割分担や負担、参加の仕方など「関わり方を見直す」こと。 学校運営協議会で扱う熟議テーマでも構いません。 大切なのは、できるだけ具体的な場面を選ぶことです。「地域連携をよくする」より、「地域の方と行う〇〇体験を見直す」の方が、この後の話し合いが進みやすくなります。グループで 1 つ決めたら、ワークシートの「本日考える活動・取組」の欄に一言で記入してください。 ポイント　・抽象的なテーマ（例：地域連携をよくする）より、具体的な活動（例：地域の方と行う〇〇体験）を選ぶ。 ・主催者が予め題材を設定しても OK。 ・『新しい活動づくり』だけに限定しない。既存活動の負担・目的・役割分担を見直す題材でもよい。
選ぶ（5 分） スライド5	ねらい　活動の前に立ちはだかりそうな声を具体化し、対話の焦点を 1 つに絞る。 進行例　では、障壁カード 10 種類を見てください。今決めた活動を進めたり、見直したりするときに、「実際にこんな声が出てきそうだな」と思うカードを探してみましょう。 まずは、気になるカードを何枚か挙げてみてください。 そして、その中から「今日このグループで一番考えてみたい“カベ”」を 1 枚にしぼってください。 ここで一つ、大切なことがあります。“カベ”は、その人自身ではありません。その立場だからこそ生まれる心配や事情、大切にしていることを、カードで見える形にしたものです。「この人が問題だ」と考えるのではなく、「この立場からは、何が見えているんだろう？」という視点で考えてみてください。 カードを 1 枚選んだら、なぜその“カベ”を選んだのかも簡単に共有し、ワークシート（1）にカード名を記入してください。 ポイント　・選ぶ理由を共有すると、立場の違いが見えやすくなる。 ・最終的に扱うカードを 1 枚に絞る。
訳す（10分）	ねらい　表面の言葉だけから背景を想像し、相手の立場を理解するための仮説

スライド6～7	をつくる。 進行例 【スライド6】 ここからが「翻訳」です。まず、カードの裏面はまだ見ないでください。表面の言葉だけを見て考えます。 この人は、何を心配しているのでしょう。どんな責任を感じているのでしょう。何を守ろうとしているのでしょう。そして、本当はどんな状態になってほしいと願っているのでしょう。 「心配していること」「責任感・守りたいもの」「願い・大切にしたいこと」この３つの視点から考えてみてください。 正解はありません。出てきた意見を否定せず、できるだけたくさん出して、ワークシート（2）に書き込んでください。 ただし、ここで考える『心配』『責任感』『願い』は、あくまで私たちの仮説です。相手の気持ちを決めつけるのではなく、実際は本人との対話の中で確かめていくものだということも忘れないでください。 【スライド7】 ではここで、カードを裏返してください。 裏面には「翻訳の視点とヒント」があります。先ほど皆さんが考えたことと比べながら、「どうすれば一緒にできる？」という言葉や方法を考えていきます。 翻訳のポイントは３つです。 1つ目。まず、相手の思いを受け止める。 2つ目。お互いが大切にしたいことや共通する願いを確認する。 3つ目。無理のない具体的な一歩を提案する。 ここで特に大切なのは、翻訳は相手を変えることではないということです。相手の声を受けて、自分たちの方法も一緒に組み替えます。 ・役割を分ける。 ・学校や地域の負担を減らす。 ・安全策を加える。 ・まずは小さく試してみる。 ・場合によっては、今はやめる、形を変えるという判断もあります。 カード裏面は“正解”ではなく、あくまでヒントです。皆さんの地域や活動に合った「翻訳術」を考え、ワークシート（3）に書いてみてください。 ポイント ・最初から裏面の例文を読むと“正解探し”になりやすいため、前半は表面だけで考える。 ・「もっと理解してもらう」ではなく、役割分担・負担軽減・安全対策・小さく試すなど、方法の翻訳も歓迎する。 ・相手の懸念が合理的な場合は、無理に前向きな言葉へ変換しない。活動そのものを修正・中止する判断も対話の成果になり得る。

話す（7 分） （壁打ち①） スライド8～9	ねらい　考えた翻訳術を実際のやり取りで試し、想定外の反応を想定内に変える。 進行例　【スライド8】 ここから「カベトーク!」本番です。今考えた翻訳術を、実際のやり取りで試してみましょう。 まずグループの中で 3 つの役割を決めます。 1人目は「カベ役」。選んだ障壁カードの人物になりきり、カードの声やその立場なら言いそうな心配や質問を伝えます。 2人目は「翻訳者役」。先ほど皆さんで考えた翻訳術を使って答えてください。 それ以外の方は「サポーター」です。やり取りを聞きながら、「ここは伝わってきた」「ここは少し引っかかった」「こうするともっとよくなりそう」というところを見つけ、ワークシート（4）にメモしてください。 最初の 2～3 分は、役になりきってやり取りします。その後は役を離れ、全員で「もっと一緒にできる形」にするにはどうすればよいか、作戦を磨いてください。 【スライド9】 始める前に、大切なことを 4 つだけ確認します。 1つ目。カベ役は、意地悪さを競う役ではありません。実際にありそうな心配や質問を出してください。 2つ目。翻訳者は、答えに詰まっても大丈夫です。サポーターも一緒に考えてください。 3つ目。一番大切なのはずっと役になりきらないことです。やり取りをした後は役を離れ、 全員が仲間に戻って一緒に作戦を磨きます。 4つ目。「何とか相手を納得させる」ことがゴールではありません。話してみて、「この活動は変えた方がいい」と気付いたら、 活動を修正することも大切な成果です。 場合によっては、今は無理に実施しないという判断もあります。 想定外の声を、想定内にするための練習です。 では、壁打ち①を始めてください。 ポイント　・カベ役は“意地悪さ”を競わない。実際にあり得る心配や質問を出す。 ・サポーターはワークシート（4）に【伝わってきたところ】や【引っかかったところ】【加えたい工夫】を記入する。 ・翻訳者役が詰まったら、サポーターや進行役が助け舟を出してよい。 ・役になりきる時間より、その後に仲間として改善する時間を大切にする。
話す（7 分） （壁打ち②） スライド10	ねらい　役割を替えて別の視点を経験し、翻訳術の具体性を高める。 進行例　では、2回目にいきます。今度は、1 回目とは別の方が カベ役と翻訳者役を担当してください。同じ障壁カードを使いますが、 カベ役は少し違う質問をしても構いません。翻訳者は、1 回目の壁打ちで出てきたヒントを使っ

	て、さらに「一緒にできる形」に近づけてみましょう。 2回目で特に意識してほしいのは「具体性」です。誰が何を担うのか。どこまでなら無理なくできるのか。まず何から試せるのか。 1回目よりも具体的になっているかを意識してください。 2回目もやり取りをした後は役を離れ、全員で翻訳術を磨いてください。 では、役を交代して始めましょう。 ポイント ・2回目は、1回目より具体性が増したかを見る。 ・複数グループで実施する場合は、2回目だけカベ役が別グループへ移動する発展型も可。
振り返る・見直す（5分） スライド11	ねらい 話し方のテクニックで終わらず、子ども・学校・家庭・地域それぞれにとってよりよい活動や関わり方へ修正する。 進行例 お疲れさまでした。ここからが「カベトーク!」でもう一つ大切にしたいところです。 今度は、「相手にどう言えば納得してもらえるか」という話し方から少し離れます。壁打ちをしてみて、最初に考えた活動や関わり方そのものを、少し変えた方がよさそうだと感じたところはありませんでしたか。 子どもにとってどうか。 学校にとってどうか。 家庭にとってどうか。 地域にとってどうか。 誰か一部の人だけに負担が偏ったり、逆に、一部の人だけにメリットが偏ったりしていないでしょうか。相手の声を受け止めたからこそ、活動そのものをもっとよくできるかもしれません。 グループで話し合い、最後に「ここを見直したい」という点を1つ決めて、ワークシート（5）に記入してください。 ポイント ・上手な返答ではなく、活動の設計や関係性そのものを見直す。 ・子ども・学校・家庭・地域の一部の方だけに負担やメリットが偏っていないかを確認する。
まとめ（3分） スライド12	ねらい 学びを抽象的な感想で終わらせず、対話や見直しにつながる小さな一歩に落とし込む。 進行例 最後に、（「全体で」もしくは「グループ内で」）一人ひとり一言ずつお願いします。「今日の気付き」または「次にやってみたいこと」どちらか一つを話してください。 大きな行動でなくて構いません。「次の会議でこのカードを使ってみる」「○○さんに一度、話を聞いてみる」「今の活動の役割分担を見直してみ

	る」 など、そんな小さな一歩で十分です。 今日、皆さんに持ち帰っていただきたいのは、“カベ”があること自体を悪いことだと思わなくてよいということです。立場が違えば、心配することも、大切にしたいことも違います。だからこそ、その違いは対話の入口になります。 “カベ”が見えたら、対話のチャンス。「誰が正しい？」ではなく、「子どもたちのために、どうすれば一緒にできる？」 ぜひ、この問いを皆さんの地域や学校に持ち帰ってください。 以上で「カベトーク！」を終了します。 ありがとうございました。 ポイント ・時間が押した場合も、最後の問いは省かない。カベトーク！のねらいを再確認する重要な場面。 ・全員共有が難しい場合は、隣同士で一言ずつでもよい。

5 進行役が大切にしたい 5 つのこと

（1）「論破」しない

カードの人物を“乗り越えるべき敵”にしない。背景にある心配や責任感を丁寧に拾う。

（2）「正解のセリフ探し」にしない

カード裏面は模範解答ではなくヒント。実際の地域・学校の状況に合わせ、自分たちなりの言葉と方法を考える。

（3）「話し方」だけで終わらない

相手の懸念を受けて、活動内容・役割分担・安全面・負担そのものを修正してよい。

（4）「子どもをまんなかに」に戻る

学校か地域のどちらが得かではなく、子ども・学校・家庭・地域にどんな価値が生まれるかを確かめる。

（5）安心して話せる場を守る

実在の個人への批判や特定の立場を揶揄する発言に流れたら、カードの“立場”に戻して考える。

6 実施条件に応じた調整

状況	調整方法
1 グループだけで実施	グループ内でカベ役・翻訳者役・サポーター役を交代する。これを標準形とする。
2グループ以上	標準形のままでもよい。交流を増やしたい場合のみ、壁打ち②でカベ役が別グループへ移動する。
3人以下	進行役がカベ役を担う、または 1 人がカベ役・1 人が翻訳者役・1 人が観察役となる。
30 分しかない	導入2分／題材設定3分／選ぶ3分／訳す7分／壁打ち8分／振り返り5分／まとめ2分。壁打ちは1回とする。
60 分取れる	壁打ち後の『活動・関わり方の見直し』を20分程度に拡張し、具体的な役割分担や次の一歩まで話し合う。